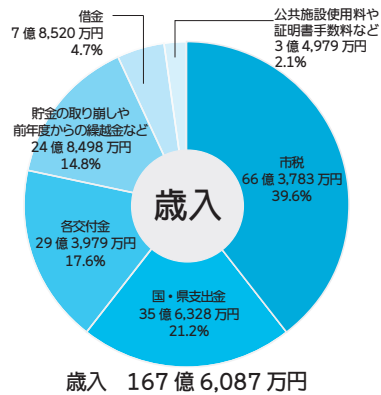


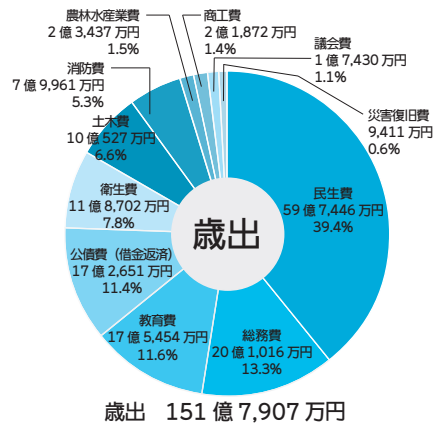
令和元年度 富里市の決算報告

一般会計 歳入・歳出の状況

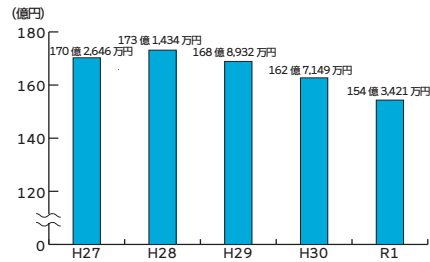


令和元年度の決算が9月市議会で審議され認定されました。決算は、市民の皆さんが納めた税金などが、どのように使われたのかを示すもので、まちづくりの記録でもあります。一般会計を中心に、概要をお知らせします。

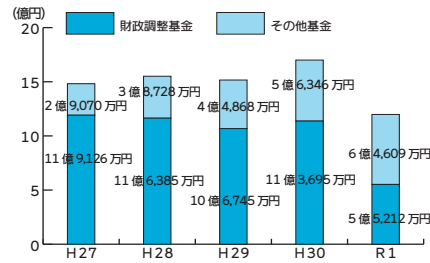
図 財政課 ☎ (93) 1115



一般会計市債残高推移



一般会計基金残高推移



令和元年度末公有財産

土地	1,378,314㎡
建物	122,082㎡
有価証券および出資による権利	19億910万円
物品 (車両など)	286点

※物品は重要物品のみ掲載

歳入歳出決算総括表

区 分	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	167億6,087万円	151億7,907万円	15億8,180万円
特別会計			
国民健康保険	60億4,483万円	58億5,364万円	1億9,119万円
介護保険	27億9,794万円	27億5,947万円	3,847万円
後期高齢者医療	4億4,561万円	4億4,333万円	228万円
合計	260億4,925万円	242億3,551万円	18億1,374万円
公営企業会計			
水道事業			
収益的収支	9億5,941万円	9億1,987万円	3,954万円
資本的収支	1億7,178万円	3億7,494万円	△2億316万円
下水道事業			
収益的収支	9億6,797万円	8億5,424万円	1億1,373万円
資本的収支	9,823万円	3億174万円	△2億351万円

※各数値については、整合性を保つため端数調整をしています。

※公営企業会計は消費税を含みません。

- 令和元年度一般会計決算は、歳入が167億6,087万円（前年度比8.4%増）、歳出が151億7,907万円（前年度比4.9%増）でした。
- 特別会計は、令和元年度から下水道事業が公営企業会計に移行したため、3つの特別会計における決算は、歳入総額では92億8,838万円、歳出総額では90億5,644万円でした。
- 公営企業会計における水道事業会計は、収益的収支は3,954万円の黒字、資本的収支は2億316万円の不足でした。この不足額は、損益勘定留保資金などで補てんしました。なお、起債の未償還残高は、15億7,941万円です。令和元年度末の給水人口は3万9,658人、普及率は79.5%です。
- 公営企業会計における下水道事業会計は、収益的収支は1億1,373万円の黒字、資本的収支は2億351万円の不足でした。この不足額は、損益勘定留保資金などで補てんしました。なお、起債の未償還残高は20億6,053万円です。令和元年度の処理区域内人口は3万2,154人、普及率は64.1%です。

令和元年度に実施した主な事業

手をつなぎ、みんなで目指す、明るく元気なまち

○筋力アップのための健康づくり教室の開催

40歳以上の方を対象に、自主的にロコモティブシンドローム予防に取り組めるよう、筋力トレーニングなどの習慣化を狙いとした、実践的な健康教室を開催した。（参加者数21人）



○生活困窮者等の自立支援

生活困窮者及び生活保護受給者が、早期に脱却できるよう就労支援などを行った。（就労決定者61名）

みんなが活躍し、農・商・工がともに輝く活力あるまち

○「すいか」の生産支援

市の特産品である「すいか」の栽培促進と、生産者の減少を抑制するために、生産者へ奨励金を交付した。（生産者207人、栽培面積15,533a）

○農作物の被害防止のために

有害鳥獣による農作物被害を防止するため、個体数管理や被害防除を実施するとともに、狩猟免許の取得に対する補助を行い、鳥獣被害防止の充実を図った。（令和元年度狩猟免許取得者11人）



市民のこころをむすび、可能性を未来につなぐまち

○成田空港周辺を取り巻く道路環境の整備

成田空港へのアクセス強化を図るための幹線道路の整備として、酒々井インターチェンジと七栄市街地を結ぶ市道01-007号線の用地測量や、一部道路工事に着手した。

○都市における円滑な移動の確保に向けて

七栄市街地と日吉台地域を結ぶ都市計画道路3・4・20号成田七栄線は、将来にわたり、市民生活の向上や経済活動の発展を支える道路であり、整備効果の高い路線として道路の用地買収を行った。

教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち

○小・中学校の空調機の整備

児童生徒の熱中症予防などの健康面に配慮し、快適に学習に取り組める教育環境を確保するため、小・中学校の普通教室及び特別教室に冷暖房設備を整備した。（令和元年度で全校整備完了）

○「平和」に対する取り組み

戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えるため、市内中学生の代表4名を被爆地である長崎に派遣した。



人と自然が調和し、安全安心なまち

○防災体制の整備

地域防災計画などに基づき、大規模災害に備えるため、防災備蓄の整備や自主防災組織を支援するとともに、民間事業者などと災害応援協定を締結し、防災行政の強化を図った。（令和元年度末災害応援協定数54団体）



○安全安心な道路環境整備

安心して通行できる道路環境を確保するため、カーブミラーなどの交通安全施設を計画的に整備した。

市民と行政の気持ちの共有による自立したまち

○協働のまちづくり・市民活動を支援

推進計画に基づく各事業を推進委員会が検証するとともに、自発的に活動する団体に市民活動支援補助金を交付した。

○計画的な行政運営

少子高齢化の進展と人口減少社会に対応すべく、健全な行政運営を遂行するため、市の最上位計画である総合計画や行政改革大綱の見直しを行うとともに、各計画の進行管理に努めた。

※都市計画法に基づいて行う都市計画事業や土地区画整理法に基づいて行う土地区画整理事業に要する費用に充てるための目的税が、都市計画税です。令和元年度の都市計画税3億968万円の使途は、都市計画道路3・4・20号成田七栄線の整備、一般会計から下水道会計事業への負担金、七栄北新戸地区の土地区画整理事業、地方債の償還金などで、総事業費は5億3,613万円です。

財政健全化法に基づき公表

市の健全化判断比率の状況

健全化判断比率と状況

指標名称	市の数値	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	—	13.46%	20.00%
②連結実質赤字比率	—	18.46%	30.00%
③実質公債費比率	7.8%	25.0%	35.0%
④将来負担比率	50.4%	350.0%	

※①と②は、実質収支が黒字のため「—」の表記になります。

令和元年度決算に基づき、一般会計の健全化判断比率と公営企業の資金不足比率について、監査委員の審査を受け、議会に審査意見とともに報告しました。市の数値は、下表のとおり全ての財政指標が早期健全化基準を下回り、昨年度に続き財政の健全性（健全段階）を示しています。今後も市では、財政と経営の健全化に取り組んでいきます。

資金不足比率と状況

会計の名称	市の数値	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
下水道事業会計	—	

※資金不足ではないため「—」の表記になります。